

# 稲作の基礎について VII

J A 福岡市東部 営農生活課

## I 秋ウンカに関して

今年は、残念ながら管内で坪枯れが発生してしまいました。

秋ウンカの発生に関しては田んぼに入らなければ解らない事が多いので稲作だよりで【秋ウンカが発生しています】等の記載があった場合、田んぼに入って確認して頂きたいと思います。

今年は、7月調査の段階で秋ウンカが僅かながら確認出来ましたので、稲作だより2号(8月盆前発行分)に【秋ウンカ注意】と記載していました。

ウンカは、中国から数回飛来してくるため、田んぼに入って確認しないといつ飛んで来た分なのか解りません。いつ飛んで来たか解らないといつ防除したら良いかが解りません。

田んぼは一枚一枚違います。田んぼに入って確認する事が一番大事です。



秋ウンカ 幼虫



同成虫(長翅)



同成虫(短翅)

特に一番右の、羽が短い成虫がいた場合は要注意です。

羽が長い成虫は、他の場所に飛んで行く事が出来ますが、羽が短いと飛んで行く事が出来ないで、その田んぼで増える可能性が非常に高いからです。

## II イネとヒエの違い

近年、【稲より一段背が高い草がある】という問い合わせが増えてきています。

稲より一段背が高い草は、概ねヒエです。稲と稲の間に生えていれば解りやすいのですが、解りやすいものばかりではありません。

ですが、ヒエをそのままにしておくと来年また増える事になります。

出来る事であれば、ヒエの穂が出る前までに処理しましょう。



どちらが稲でどちらがヒエか解りますか？

稲の葉の付け根部分には、葉舌(ようぜつ)という薄い膜があります。これが有るか無いかで判断します。

他にも、ヒエは葉の真ん中に一本筋が通っている。と他にも区別する箇所はありますが、葉舌の有るか無いかで見分ける事が一番確実です。

### Ⅲ葉色による倒れ方の違い

葉色が濃く、青々していると見た目が良く収量が増えそうな気がします。しかし、青田を褒めてはいけません。



今年の台風後の写真です。

左右で、葉色が違う事がお解りいただけると思います。

次頁左上の写真が、色が濃い方の田んぼ。

次頁右上の写真が、色が普通の田んぼです。



色が濃い(窒素が多い)方が倒れやすい事がお解りいただけると思います。

この写真の程度ならまだ良いのですが、べったり倒れてしまうと非常に刈りにくくなってしまいますので、こうならないように管理して下さい。

肥料が少ない分は後で足せますが、多すぎる分を抜く事は出来ません。緩効性肥料(一発肥料)の入れ過ぎは禁物です！皆様方の経験に基づいた、土地にあった施肥量を注文して下さい。

また、珪酸を入れる事で葉が硬くなり倒れにくくなりますので、収量アップ・病害予防も可能となる珪酸加里をご利用下さい。